



## 「ありがとう」の言葉のすばらしさを！

3月と言えば「啓蟄（けいちつ）」を思い浮かべる人も多いことでしょう。「啓蟄」とは、「春の陽気を感じ、地中で冬ごもりをしていた虫が動きだし、はい出してくる季節」のことをいいます。今年度も残りわずかとなりました。子どもたちには、地中で行うしつかりとした締めくくりをさせて、新しい学年に力強くはい出てほしいと考えています。

さて、この時期になると学校では、「6年生を送る会」や「謝恩会」などお世話になった人たちへの感謝の気持ちを表す会が開催されます。本校でも1日（水）に「6年生を送る会」、3日（金）に「謝恩会」が行われ、体育館には、子どもたちが書いた感謝の気持ちを表す「ありがとう」の文字でいっぱいでした。

この感謝を表す「ありがとう」の語源は「ありがたし」。漢字で書くと「有り難し」で「有るのは難しい」＝「めったにない」という意味になります。清少納言の枕草子72段「ありがたきもの」で紹介されています。昔の人は、滅多にない良いことがあると、神や仏の力だと信じて「こんなことは有り難いことだ」と拝んで感謝したのです。そのつぶやき「有り難いことで・・・」が一般的に感謝する気持ちのときに、話し言葉（口語）で使われるようになったのです。

また、NHK放送文化研究所が行っている世論調査に、「日本人の好きなことば調査」というものがあります。その調査結果では、好きな言葉の第1位が「ありがとう」という言葉でした。「ありがとう」という言葉は私たち日本人の大好きな言葉なのです。

この「ありがとう」という言葉はありふれた言葉ではありませんが、本当に素晴らしい言葉だと思います。なぜなら、相手の行為を「ありがたい」と受け止める謙虚な心の表れだからです。

祝いやプレゼントをもらった時に「ありがたい」と感じるのはやさしいのですが、日々の生活の中での恩恵は、日常的過ぎてありがたさにあまり気づかないものです。ともすると、それが当たり前のことに加え、周りの人に支えられている自分がいるという本質的なことさえ見失ってしまいがちです。

本校の子どもたちには、親や教師、お世話になっている人々やその人たちの行為に対して素直に感謝する言葉を述べられるようになってほしいと願っています。

たった5文字の「ありがとう」という言葉が、人を幸せな気持ちにさせたり、人に自信を持たせたりして、温かい人間関係を築いていくのです。

皆がお互いに感謝の気持ちを持ち、「ありがとう」という言葉をたくさん使ったら、学校も家庭も社会もきっと温かで素晴らしいものになるに違いありませんね。

**やさしい言葉は、たとえ簡単な言葉でも、ずっとずっと心にこだまする。**

マザー・テレサ



## 6年生を送る会 6年生へ 感謝の気持ちをこめて

6年生を送る会実行委員長あいさつ 5年 山崎 雄登

ぼくは、6年生が卒業することがさびしくてたまりません。昨年、皆さんが6年生になられた時の運動会で、その堂々とした声や姿勢にとっても圧倒されました。二小遊び隊でも小さい子の意見を取り入れながら遊びの計画を立て、仲間に入っているか、けがをしないかよく見ていただきました。毎日のそうじも6年生が優しく接してぞうきんのふき方を教えてくださいましたから、みんな上手にできるようになったのです。今年は特に引継ぎをしっかりとやっていただきました。「来年はこうするといいよ」「がんばってね」といわれると「がんばらなきゃいけないな」と強く思いました。今日は、今までの皆さんへの感謝の気持ちを込めて、この会を計画しました。

※紙面の都合上山崎君のあいさつの一部省略しています。



6年生を送る会 6年1組 鈴木 彩紗

6年生を送る会がありました。第1部は各クラスへ行ってゲームをしたり発表を見たりしました。どのクラスも一生懸命おもてなしをしてくれて、心が温かくなりました。もの当てゲーム・恋ダンス・フルーツバスケットなど楽しい遊びを考えてくれたみんなに感謝です。第2部は、体育館で行いました。会場の飾りつけや5年生の司会・進行がとても素晴らしくて、感動しました。鼓笛も、4・5年生の頑張りや努力が伝わってきてうれしくなりました。今年の鼓笛パレードが楽しみだなと思いました。

今日は、本当に1年生から5年生の頑張りが伝わってくる日でした。何日も前から練習して本番を迎えたのだろうと思います。だから私たちはそのことに感謝をし、卒業する最後の日まで6年生らしく二小の見本でいることが大事だと思います。

**鼓笛引継ぎ式** 6年生の渡辺瑞季さんから5年生の米倉美瑚さんへ指揮杖が引き継がれました。

5年生代表 米倉 美瑚

今、指揮杖をいただき、思ったよりも重いと感じられました。それは、今までたくさんの卒業生が受け継ぎ、継がれ伝統を守ってきた重みであり、鼓笛隊をこれから引き継いでいく責任の重みであると思います。

不安はいっぱいあります。でも、この間の鼓笛練習の時、みなさんが4年生に優しく励ましながら教えてくださいました姿を見て、私も同じようにやればいと自信が持てました。6年生の皆さんが今まで見せてくださった姿が、私たちの道しるべです、これからもどうぞ見守ってください。

6年生の皆さん、そして先生方、私たちは全員が主役になり、心を合わせて演奏し、二小の伝統の鼓笛隊を引き継いでいくことを誓います。



## 4学年「高齢者の立場になって考えてみよう」高齢者疑似体験

社会福祉法人須賀川市社会福祉協議会コミュニティ活動支援コーディネーターの佐藤典子様、内山勝江様を講師にお迎えして授業を行いました。お年寄りに対する接し方とヘルパーの仕事の大切さを学ぶことができました。

老人体験について 4年1組 飯森 昊

ぼくは、老人体験をしたたくさんのことを感じました。まずは、体の不自由さや動きにくさです。おもりをつけて歩くと、肩や首が痛くなりました。特別なめがねをつけると、文字がみえにくくなりました。「お年寄りは大変だな。」と思いました。ぼくはこれから、お年寄りが困っていたら助けられる人になりたいと思います。

